

日本分析化学会九州支部

支 部 ニ ュ ー ス

第 46 号 2022 年 8 月

九州支部ウェブサイト

http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/

2022 年度 日本分析化学会九州支部

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35

鹿児島大学大学院理工学研究科化学プログラム 環境解析講座

支部活動報告

❖ 2022年度 第1回常任幹事会 ❖

2022年6月13日(月)、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、ZoomでのWeb会議となりました。議事録は支部ウェブサイトに掲載しております。下記リンクよりご覧下さい。

http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/current/22minutes1.pdf

❖ 九州分析化学若手の会 第35回 若手研究講演会 および第40回 夏季セミナー ❖

主催：九州分析化学若手の会・日本分析化学会九州支部

期日：2022年7月29日(金)～7月30日(土)

会場：オンライン開催

内容：分析化学に関する若手研究者間の勉強会、講演

○招待講演1：久本 秀明 先生

(大阪公立大学大学院工学研究科)

「化学センサーからマイクロ分析デバイス・システムへ：現在の研究に至るまで」

○招待講演2：中村 卓 先生(明治大学農学部)

「おいしい食感のデザイン～破壊過程に着目した官能評価・物性測定・構造観察～」

○招待講演3：梅野 太輔 先生(早稲田大学大学院理工学術院/千葉大学大学院工学研究院)

「「知覚する」分子系の進化デザイン学」

○九州分析化学奨励賞授賞式・受賞講演

○九州分析化学ポスター賞受賞者模範ポスター発表

○一般発表：(審査の結果、4名の方が九州分析化学若手賞に選出されました。)

○総会

○情報・意見交換会

世話人：佐賀大学農学部 宗 伸明、野間誠司

7月29日(金)～30日(土)の日程で、第35回若手研究講演会および第40回夏季セミナーを開催いたしました。今年は、Zoomを用いたオンライン形式による開催となりましたが、大変多くのご参加

(参加登録者数：176名、研究室/団体数：29)を頂きました。

1日目は、開会式後、3件の招待講演から始まりました。久本 秀明 先生からは、先生がこれまで取り組まれてきた化学センサーのご研究から現在行っておられるマイクロ分析デバイス関連のご研究に関し、現在に至るまでの経緯や、その時々様々な出来事やその際に考えられたことなどを、ユーモアを交えながら、熱く語って頂きました。「面白い」と思ったものは大切に、新しい場所での人・モノとの出会いがオリジナルな研究の創成に寄与する、といった先生の哲学は、これからの活躍が期待される若手研究者の皆さんにとって、心に留めるべき重要且つ貴重なメッセージになったものと確信しています。座長は、加地 範匡 先生(九大院工)にご担当頂きました。続いて、中村 卓 先生からは、先生が提唱される、おいしさを食品サイドから追求し、食品構造の制御によりおいしさをデザインする「食品構造工学」についてご講演いただきました。おいしさと食感を知覚レベルと認知レベルに分け、さらに前者を力学特性と構造状態に、後者を時間軸と口腔部位にわけて評価するというこれまでにない緻密な視点をご紹介され、そこで得た知見に基づき、いかにおいしさを示す感性的な食感表現(もちもち・ロどけが良い等)の実現や、おいしい食感のデザインにつなげていくかについてご説明されました。食品とおいしさといった身近な話題であると同時にその将来に関わる先進的な話であり、学生さんから多くの質問が出されました。座長は、井倉 則之 先生(九大院農)にご担当頂きました。最後に、梅野 太輔 先生からは、ご自身が如何にして現在のご研究に至ったのか、進路を決定される際の出来事や時代的背景、様々な優れた先生方(メンター)との出会い、学生時代に専攻した分析化学・高分子化学から進化学の世界へ飛び込まれた経緯等について、ご自身の体験を中心に、ユーモラスに、且つ大変高い熱量で語って頂きました。カルフォルニア工科大学のフランシス・アーノルド先生(2018年ノーベル化学賞)の研究室で研究に取り

組まれていた時の体験談も交えて頂き、これから世界で活躍を目指す若手研究者の皆さんにとっても、大変有意義で貴重なお話をお聴きすることができました。座長は、森 健 先生（九大院工）にご担当頂きました。いずれのご講演も、通常学会では聴くことができないような内容で極めて興味深く、質疑応答も活発に行われ、予定時間を超過するほどの大変な盛況となりました。



久本 秀明 先生



中村 卓 先生



梅野 太輔 先生

次に、九州分析化学奨励賞の授賞式を開催しました。授賞式では、支部長の富安先生から受賞者への賞状の授与、並びに受賞者への祝辞と激励のメッセージを頂きました。その後、支部奨励賞を受賞された3名の方による受賞講演が行われました。いずれの受賞者も、奨励賞受賞者として相応しい、完成度の高い講演でした。今後、分析化学研究における

益々のご活躍を祈念致します。座長は、巴山 忠 先生（福岡大薬）、石松 亮一 先生（九大院工）、江藤 真由美 先生（大分大理工）にご担当頂きました。今年度の奨励賞受賞講演は、3件とも英語で行われましたが、招待講演に引き続き、大変活発な質疑討論が行われました。

○Tae-Hun Hahm さん

（九州大学大学院生物資源環境科学府）

「定量 MALDI-MS 法の構築と食品成分のバイオアベイラビリティ評価への応用に関する研究」

○Shaimah Rinda Sari さん

（佐賀大学大学院理工学研究科）

「Electroanalytical Sensor Based on Nanomaterials-modified Electrode for the Detection of Environmental Contaminants」



九州分析化学奨励賞受賞者の皆さん

左上：富安支部長、右上：Sari さん

左下：Hahm さん、右下：Wen さん



Tae-Hun Hahm さん



Shaimah Rinda Sari さん



Lu Wen さん

○Lu Wen さん（九州大学大学院芸術工学府）

「Laser Ionization Mass Spectrometry for Analysis of Environmental Pollutants」

1日目の最後には、情報・意見交換会が開催されました。今年度は、夏季セミナーとして初めてのオンライン上での開催となりました。まず、参加者による研究室紹介が、Zoomを用いて行われました。リアルタイムのプレゼンテーション形式による熱のこもった研究室紹介や、大変ユニークな動画による研究室紹介など、各研究室の日常の雰囲気を感じられる、素晴らしい研究室紹介でした。準備に多くの時間を費やしたと思われる凝った演出も見られ、ご自身の研究室への熱い思いが強く感じられる紹介となりました。続いて、SpatialChatを用いたオンライン交流会が開催されました。SpatialChat上では、自分のアイコン（カメラに写るリアルタイム画像）をマウスで操作することで、現実環境に似た会話（アイコン間の距離に依存して聞こえる音声の大きさが変わる、複数人でも話せる）を行うことができます。今回、初めてSpatialChatを使用する方が多いようでしたが、皆さんすぐに操作に慣れたように見受けられました。オンライン上で、大学の垣根を超えた活発な議論がかわされ、対面時を想起させるような密な交流がなされました。

2日目は、まず、第59回化学関連支部合同九州大会において九州分析化学ポスター賞を受賞された4名の方に対する九州分析化学ポスター賞授賞式が執り行われました。九州分析化学ポスター賞授賞式は、第59回化学関連支部合同九州大会の開催日当日にも行われておりましたが、今回夏季セミナーにご参加頂いた多くの皆様の前で、改めて受賞のお祝いをする機会となりました。続いて、九州分析化学若手の会総会を開催し、今年度の夏季セミナー世話人である宗および野間から年間行事と会計についての報告が行われ、承認されました。次に、九州分析化学ポスター賞受賞者4名による模範ポスター発表が行われました。発表にはZoomのブレイクアウトルーム機能を使用し、割り当てられた各ルーム内での発表を行って頂きました。各ポスター発表の座長は、満塩 勝 先生（鹿児島大工）、岸川 直哉 先生（長崎大薬）、梅木 辰也 先生（佐賀大理工）、宮崎 義之 先生（九大院農）にご担当頂きました。

座長の先生の進行のもと、活発な議論が行われ、いずれも、参加した若い研究者がこれから優れたポスター発表を行うための良い手本となる発表となりました。

○小畑 翔平 さん

（熊本大学大学院自然科学教育部）

「錯形成を利用した原料マトリックスからのアトグラムレベル放射性金属イオンの精製」

○松尾 祐治 さん（九州大学大学院薬学府）

「ケミカルプローブによる脂肪酸分解経路の検出」

○永井 はるか さん（九州工業大学工学府）

「DNAトリプレットリピートの識別を目指した新規環状ビスナフタレンジイミドの開発」

○赤峰 麻衣 さん（九州大学大学院工学府）

「多孔質炭素材料の構造がインドールの選択的吸着に与える影響」



小畑 翔平 さん



松尾 祐治 さん



永井 はるか さん



赤峰 麻衣 さん

模範ポスター発表の終了後、一般発表を行いました。今回の一般発表は、オンライン上という特性を活かし、ポスター発表という形式に限定せず、各発表者に割り当てられたZoomのブレイクアウトルーム内で、創意工夫を凝らした発表を行って頂きました。35件の発表登録があり、発表者の皆さんの熱がこもったプレゼンテーションを基に、活発なディスカッションが展開されました。今回の夏季セミナーでは、対面開催と同様に、一般発表の中から九州分析化学若手賞の選出を行いました。これは、オンライン開催としては初の試みとなりました。参加者によるオンライン投票の結果、以下の4名の方が、九州分析化学若手賞を受賞されました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

○金子 諒右 さん（九州大学大学院工学府）
「バイオ分析に適した増感酵素としての「ヒト細胞直交性酵素」群の開拓」

○山田 実佳 さん（福岡大学薬学部）
「イオン化及びフラグメンテーション効率の改善を指向した誘導体化法によるペプチド類の高感度 LC-MS/MS 分析」

○岸本 祐汰 さん（九州大学大学院工学府）
「マイクロ流体デバイスによる単一マイクロプラスチック分析手法の開発」

○原田 悠太 さん（佐賀大学農学部）
「微細藻類外被の湿式剪断破壊と有用物質の抽出」



富安支部長



九州分析化学若手賞受賞者の皆さん
左上：金子さん、右上：山田さん
左下：岸本さん、右下：原田さん

また、今年の夏季セミナーでは、ベスト質問賞の選出も行いました。こちらも、前述の九州分析化学若手賞と同様、オンライン開催としては初の試みとなりました。招待講演、奨励賞受賞講演、模範ポス

ター・一般発表の各カテゴリーで、優れた質問をされた方を参加者を選んで頂き、オンライン上での投票を行いました。その結果、以下の4名の方が九州分析化学若手ベスト質問賞を受賞されました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

○金子 諒右 さん（九州大学大学院工学府）
（九州分析化学若手賞とのダブル受賞）

○田中 雄大 さん（佐賀大学大学院理工学研究科）

○成田 千紗 さん（佐賀大学農学部）

○白濱 陸 さん（佐賀大学大学院農学研究科）



九州分析化学若手ベスト質問賞
受賞者の皆さん

左上：金子さん、右上：田中さん
左下：成田さん、右下：白濱さん

九州支部では北海道支部との交流事業を継続して行っています。2日目の一般発表終了後の時間帯で、北海道支部において今年度開催された第38回緑陰セミナー&若手交流の会にオンラインにて参加され、九州支部からの講師としてご講演された末田慎二先生（九工大院情報工）から、参加のご報告を頂きました。また、来年度の夏季セミナーの世話人である佐藤しのぶ先生（九工大院工）より、今回の夏季セミナーを、ホテルクラウンパレス北九州（福岡県北九州市）において開催予定である旨、動画を利用してアナウンス頂きました。なお、今年度は、オンライン開催のため、県外の参加者の皆様に、佐賀を実地で体験して頂くことは叶いませんで

したが、その代わりになればという思いから、佐賀の紹介動画を幾つかご覧頂きました。参加者の皆様が、佐賀の魅力を感じて頂ける一助になれば、大変嬉しく思います。

本年度の夏季セミナーの運営に際し、九州支部を始めとして、多くの方から多大なお力添えを頂きました。当初は、コロナ禍における対面開催の可能性を模索して参りましたが、最終的にオンライン形式での開催となりました。対面開催時のような多数の参加者が集まって下さるか心配をしておりましたが、結果的に対面開催時を超えるほどの多くのご参加を頂きました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。また初めての試みも多く、スムーズにセミナーが進行できるかについても心配な部分がありましたが、皆様の温かいご協力のおかげで、2日間にわたるセミナーを、大過なく終えることができました。講演者、座長の先生方並びにご参加いただいた皆様、そして運営にご協力いただきました全ての方々に、深く感謝申し上げます。今後のコロナの状況がどうなっていくのか、現時点で先行きは全く不明瞭ではありますが、一刻も早くコロナ前の日常を取り戻せることを強く願いながら、筆をおきたいと思っております。大変有難うございました。

【佐賀大学農学部・宗 伸明、野間 誠司】

❖ 2022 年度 日本分析化学会表彰 ❖

2022 年度の日本分析化学会学会賞に九州支部より長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 黒田 直敬 教授が「生体成分及び医薬品を対象とした精密分離・高感度検出法の開発」の業績で選ばれました。

また、学会功労賞には、大森 保 琉球大学理学部・名誉教授が「固相-液相間における微量元素の分配挙動の解明と亜熱帯環境化学への応用及び学会への貢献」の業績で、藏 源一郎 福岡教育大学・名誉教授が「環状、直鎖状縮合リン酸塩オリゴマーの分析化学研究とそれらの溶液内反応に関する研究と学会への貢献」の業績で選ばれました。今年度は受賞者が多く、九州支部の高いアクティビティーが示されました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を期待しております。

❖ 2022 年度 九州分析化学奨励賞 ❖

選考委員会による審査の結果、2022 年度九州分析化学奨励賞の受賞者は以下の 3 名に決定いたしました。おめでとうございます。受賞者の方には今後の発展と共に、分析化学会および支部活動への貢献を期待いたします。また、次年度も会員の皆様からの本奨励賞への積極的な応募をお願いいたします。



第 35 回若手研究講演会および第 40 回夏季セミナー 参加者集合写真

受賞者・受賞題目

- Tae-Hun Hahm さん
(九州大学大学院生物資源環境科学府)
「定量 MALDI-MS 法の構築と食品成分のバイオアベイラビリティ評価への応用に関する研究」
- Shaimah Rinda Sari さん
(佐賀佐賀大学大学院理工学研究科)
「Electroanalytical Sensor Based on Nanomaterials-modified Electrode for the Detection of Environmental Contaminants」
- Lu Wen さん
(九州大学大学院芸術工学研究院)
「Laser Ionization Mass Spectrometry for Analysis of Environmental Pollutants」

❖ 第 59 回 化学関連支部合同九州大会 ❖

共催：(公社) 日本分析化学会九州支部ほか7 化学関連支部
期日：2022 年 7 月 2 日 (土)
会場：北九州国際会議場

分析化学関係の依頼講演 (15:45~16:15)

- ・大平 慎一 先生(熊本大学大学院先端科学研究部)
「溶存イオンのハンドリング ~放射性金属イオンの精製・高純度イオン液体の合成~」

ポスターセッション(分析化学分野 12:30~13:30)
AC-4-001~AC-4-043) まで計 43 件
他のセッション等については、大会ホームページ
(<https://godo-kyushu.jp/godo/index.html>) をご覧下さい。

2022 年度九州分析化学ポスター賞の受賞者は、審査の結果以下の 5 名に決定いたしました。おめでとうございます。受賞者の皆さまには今後の更なる発展を期待いたします。

- 小畑 翔平(熊本大学)
「錯形成を利用した原料マトリックスからのアトグラムレベル放射性金属イオンの精製」
- 松尾 祐治(九州大学)
「ケミカルプローブによる脂肪酸分解経路の検出」
- 永井 はるか(九州工業大学)
「DNA トリプレットリピートの識別を目指した新規環状ビスナフトレンジイミドの開発」
- 赤峰 麻衣(九州大学)
「多孔質炭素材料の構造がインドールの選択的吸着

に与える影響」



九州分析化学ポスター賞受賞者の皆さん
(第 59 回化学関連支部合同九州大会にて)
左から、富安支部長、永井さん、赤峰さん、
小畑さん、松尾さん

❖ 第 61 回 分析化学講習会 ❖

2022 年に開催予定でした第 61 回分析化学講習会に關しまして、実行委員からの意見を集約した結果、今年度中の開催は極めて難しいという結論に至りました。3 年連続の開催中止という非常に残念な事態となりましたが、諸般の事情(変異型コロナウイルスの増加と感染第 7 波の懸念、人材派遣等の難しさ、三密を避けられる会場の確保、参加者の規模の維持等)により中止することを決定致しました。

ご参加予定の皆様ならびに関係者各位におかれましては、ご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。

行事案内 事務局より

❖ 日本分析化学会第71年会 ❖

期日：2022年9月14日（水）～16日（金）

会場：岡山大学津島キャンパス

開催日程：

9月14日（水）：

一般講演（口頭），若手講演（ポスター）
産官学交流カフェ，女性研究者ネットワーク，
生涯分析談話会，産業界シンポジウム
受賞講演，研究懇談会講演，付設展示会

9月15日（木）：

一般講演（口頭，ポスター），若手講演（ポスター），
受賞講演，研究懇談会講演，学会賞等授賞式，学会
賞受賞講演，付設展示会

9月16日（金）：

一般講演（口頭，ポスター），受賞講演，研究懇談会
講演，付設展示会

日本分析化学会第71年会ホームページ

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jsac71nenkai/top>

【ものづくり技術交流会2022in 中国四国 ～分析に役立つ基礎技術～】

日時：9月16日（金）

詳細は以下のホームページをご覧ください。

<http://bunseki->

innovation.net/mono2022chugokushikoku/index.html

主催：分析イノベーション交流会実行委員会，（公社）

日本分析化学会中国四国支部

<http://bunseki-innovation.net/>

❖ 支部講演会・見学会 ❖

2022年度は、支部講演会・幹事会を11月9日（水）に鹿児島大学にて開催予定です。

支部講演会では、科学警察研究所の鈴木康弘先生、三菱重工業株式会社 総合研究所の澤津橋徹哉先生により、ご講演いただきます。

コロナ感染の状況次第では、直前にオンライン開催に変更する可能性がございますのであらかじめご了承ください。なお、見学会と情報交換会はコロナ感染のリスク軽減の観点から今回は実施致しません。

❖ Analytical Sciences 誌等への投稿のお願い ❖

2022年1月より、Anal. Sci.誌の出版業務がSpringer Nature（SN）社に委託されました。

新Web siteは以下のようです。

<https://www.springer.com/journal/44211>

また新投稿サイトは以下のようです。

<https://www.editorialmanager.com/ansc>

分析化学会の会員は、学会のマイページにログインすることによりAnal. Sci.の電子版を、読むことができます。また、投稿料はこれまで同様に無料です。

国際的に認知された論文誌は、会員と学会にとって重要なだけでなく、我が国の優れた研究成果を発信して世界的なプレゼンスを高めます。良い研究論文はぜひAnal. Sci.誌へご投稿ください。また、他のジャーナル等に投稿される場合もAnal. Sci.誌の論文を引用頂けましたら幸いです。Anal. Sci.誌の国際プレゼンス向上に、皆様方のご協力をお願いいたします。

また、「分析化学」誌は、今年の特集が「省」、来年の特集は「流」です。報文、技術論文、ノート、速報その他の形式があります。総説を日本語でまとめたい方にうってつけかと思えます。また、「分析化学」論文賞、「分析化学」若手論文賞、J-Stage アクセスランキング賞があります。より投稿しやすい環境を整備することを目的として、論文作成支援制度を発足させました。論文のまとめ方について、ベテラン研究者に助言をいただくことが可能です。ぜひご利用ください。

分析化学誌ホームページ

<https://www.jsac.or.jp/~wabnisk/>

❖ 入会を歓迎します ❖

あなたのお近くに日本分析化学会への入会を考えていただけそうな方がいらっしゃいませんか？是非、入会をお誘い下さい。支部の事務局へご連絡頂ければ入会案内をお送りします。また、入会をご検討中の方に対しては、要望すれば機関紙の見本を学会本部からご提供いただけるそうです。日本分析化

学会の会員拡充にどうぞご協力下さい。

日本分析化学会の詳細は、ホームページをご覧ください。
<https://www.isac.jp/>

❖ 編集後記 ❖

本年も新型コロナウイルス感染症の影響が続いております。本稿を執筆している8月現在、第7波が猛威を振るっており、連日、過去最高の新規感染者数との報道が続いております。九州支部においても、第61回分析化学講習会の中止、九州分析化学若手の会 第35回 若手研究講演会および第40回 夏季セミナーのオンライン形式での開催となるなど、影響が続いております。しかし、若手の会ではいくつかのオンラインシステムを活用して講演会や情報・意見交換会が開催されるなど、世話人の佐賀大学 宗 伸明先生、野間誠司先生のご尽力と多くの教員・学生のみなさんの参加により盛会でした。

一方で、第82回分析化学会討論会@水戸や第71年会@岡山が対面での開催（予定含む）となるなど、徐々に従来の形にもどりつつもあります。今回のパンデミックにより、急速にオンライン会議が普及したことで、目的や必要性に応じた形式（オンライン・対面・ハイブリッド）の使い分けによる効率化が進められていくと考えられます。

さて、九州支部が担当の2023年度の分析化学会第72年会は、熊本大学の戸田 敬先生を実行委員長として、9月に熊本で開催されます。九州支部のみなさまには、開催にあたり、お力添えいただきませうお願いいたします。

【2022年度九州支部副支部長・大平】



2022 年度 日本分析化学会九州支部 事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35

鹿児島大学大学院理工学研究科化学プログラム 環境解析講座

支部長 富安 卓滋（鹿児島大学理工学研究科理学専攻化学プログラム）

tomy@sci.kagoshima-u.ac.jp / 099-285-8107

副支部長 大平 慎一（熊本大学大学院先端科学研究部基礎科学部門）

ohira@kumamoto-u.ac.jp / 096-342-3384

副支部長 赤瀬信一郎（鹿児島県警察本部刑事部科学捜査研究所）

akangelse@outlook.jp / 099-206-0110

庶務幹事 神崎 亮（鹿児島大学理工学研究科理学専攻化学プログラム）

kanzaki@sci.kagoshima-u.ac.jp / 099-285-8106

会計幹事 児玉谷 仁（鹿児島大学理工学研究科理学専攻化学プログラム）

kodama@sci.kagoshima-u.ac.jp / 099-285-8108